

国史跡 京極氏遺跡

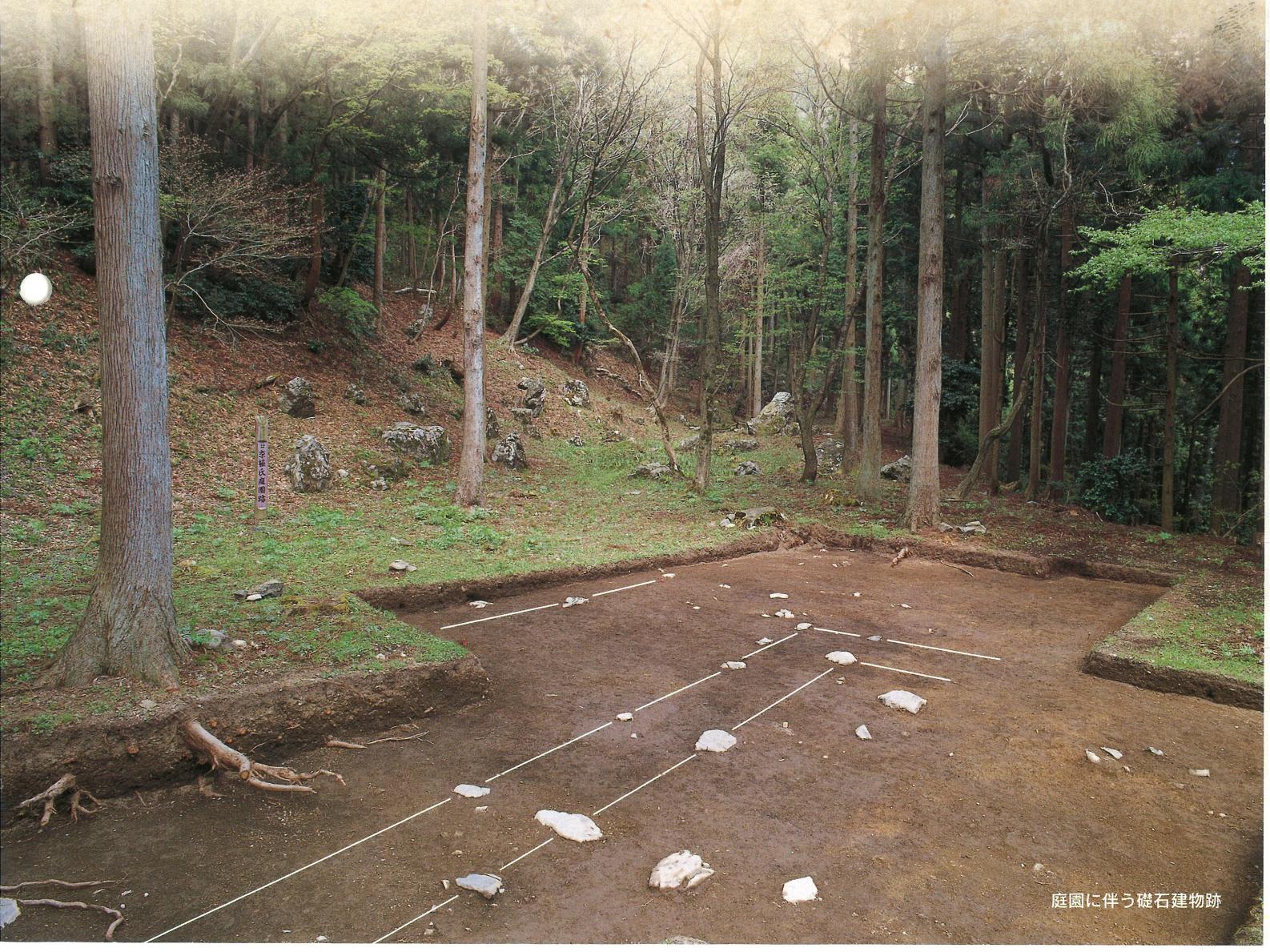
京極氏館跡・庭園跡

京極氏は、仁治2年（1241）に近江守護佐々木信綱の四男氏信が、北近江六郡を与えられたのが始まりです。当初、近江における拠点は柏原館（米原市清滝）でしたが、戦国時代の幕開けとなった応仁文明の乱（1467～1477）以降、北近江の戦国大名として歩みはじめ、これに伴って館と家臣屋敷を整備したのが「京極氏館」です。

永正2年（1505）、永く続いていた一族の内紛を日光寺（米原市日光寺）の講和で納めた京極高清は、山岳寺院上平寺があつたこの地を利用して居館を築きます。伊吹神社境内全域が京極氏館跡で、庭園を伴った京極氏の住まいや蔵屋敷、隠岐屋敷や弾正屋敷といった屋敷が建ちならんでいたようです。

『上平寺城絵図』（市指定文化財）には、内堀をはさんで館の南、現在の上平寺集落に武家屋敷や町屋敷が、さらに外堀があつて市や民家がならぶ城下町が広がり、その南端に東国と北陸を結ぶ主要道「越前街道（北国脇往還）」を取り込んでいるようすが描かれています。

このように、16世紀初頭には北近江の政治拠点として栄えた上平寺ですが、大永3年（1523）高清を補佐する上坂信光の専横に対し、浅見・浅井・三田村・堀氏などが上平寺城を攻め落とし、京極氏館は廃絶したと考えられています。



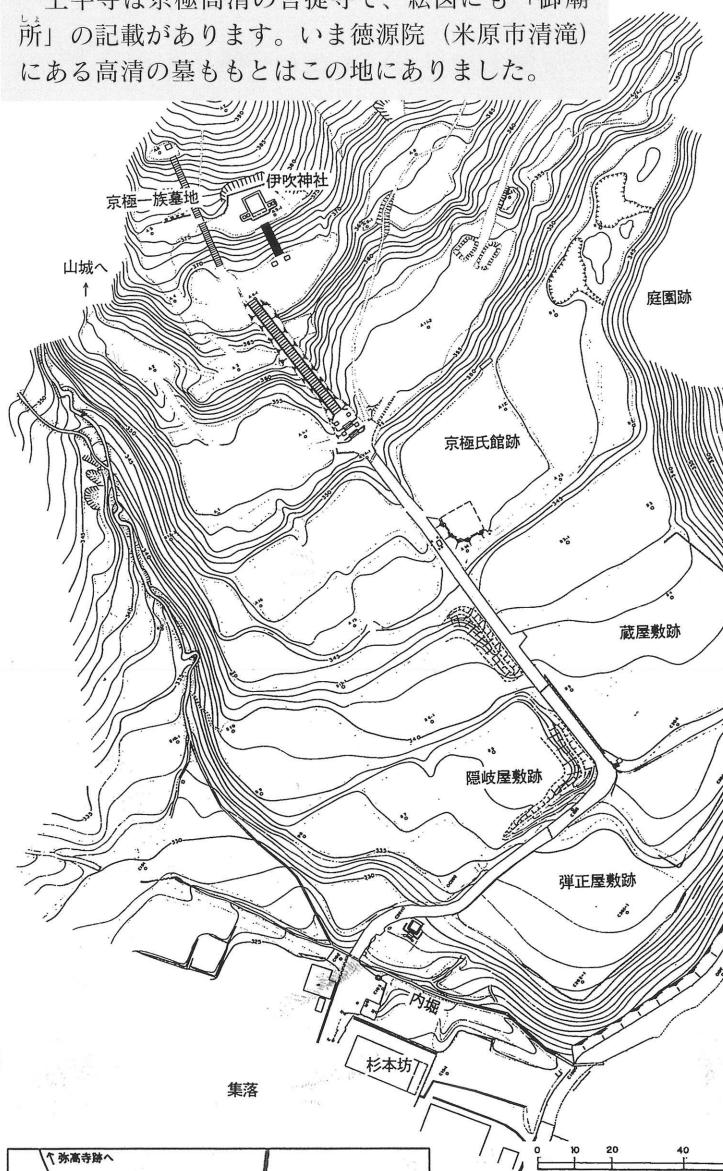
庭園に伴う礎石建物跡



〔銘文〕
淨光院殿芳室宗□大禪尼
永正五(一五〇八)年四月七日

京極氏一族の墓所

上平寺は京極高清の菩提寺で、絵図にも「御廟所」の記載があります。いま徳源院（米原市清滝）にある高清の墓ももとはこの地にありました。



京極氏館跡庭園

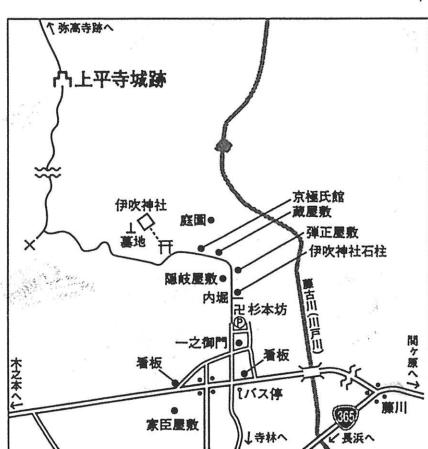
池泉觀賞式の庭園で、背後の河戸谷の四季を借景にして庭園を愛でながら、宴や武家の儀式がおこなわれました。館側での発掘調査（表の写真）では、直径20～50cmの礎石25点が出土し、東柱の礎石が良好に残る縁のまわる建物と、これとならぶ小規模な建物の2棟があったと推定されています。また、建物のまわりでは土師皿がまとまって出土しており、庭園を觀賞し、宴や儀式をおこなうための建物（会所）だったと考えられます。



京極氏屋形跡



伊吹神社



京極氏館へのアクセス

JR近江長岡駅下車。交通機関は便が悪いため、タクシー利用約15分。上平寺バス停から京極氏館まで約500m。ここから山城まで徒歩1.5km約50分。弥高集落から弥高寺跡を経由する道もある。

国史跡 京極氏遺跡（京極氏館跡・庭園跡）

指定年月日 平成16年2月27日
所在 地 滋賀県米原市上平寺

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106

平成19年度 市内遺跡保存活用事業